

川辺町

令和元年度事例

【地域の概要】

○当町の総面積は41.16km²であり、土地利用状況は総面積のうち69.5%を山林が占め農地はわずか6.5%でありその形態は飛騨川の両岸に沿って細長く拓けた農地、住宅、工場、学校等が混在している平地である。その他、鹿塩、神坂の山間部等は比較的ゆるやかな傾斜を最大限に利用した農地である。

取組開始前の状況や課題

○川辺町の農地利用集積の現状は平成30年度において約35haでまだまだ進んでいないのが現状である。

○町の中心部の平坦地については水田を中心に集積が進んでいるが、中心部から離れた農地と農地以外のものが混在している地域では担い手による集積も見込めず、高齢化や後継者不足、離農など、遊休農地化が進む恐れがある。

○個人農家の労力や費用の負担を減らし、効率化を図るとともに、農業に対する意識を向上させる必要がある。

取組内容

○集落営農について岐阜県農業会議より講師を招き研修会を行った。

○研修後、農業委員と推進委員にアンケートを取ったが、集落営農設立をやっていききたいという委員が多くいた。

今後の展開と方向性

○実際に集落営農のある市町村の実態など、より詳しい内容を学ぶ必要がある。

○視察研修や地域での話し合いをし、設立について検討していく。